

「第3回コウノトリ未来・国際かいぎ」に参加して

今回は、9月24日・25日の両日に兵庫県豊岡市で開催された「コウノトリ未来国際かいぎ」に参加し、「トキの野生復帰に向けた環境学習の取組」を発表した行谷小学校(新穂地区)の子どもたちの活動を紹介します。



ワークショップでの様子(石塚久晃君)

捕獲したコウノトリからヒナが誕生することはなく、1971年には野生の最後の個体が死亡、豊岡の上空を舞うコウノトリの姿は失われました。

その後、姉妹都市のハバロフスク地方から若い6羽のヒナが贈られ、1989年には、この若いコウノトリから、念願のヒナが誕生し、人工増殖に成功しました。現在では、118羽にまで増え、今回の試験放鳥となりました。

会場周辺の道路には、両翼2メートルの大型のコウノトリが優雅に空を舞う光景を見ようと3500人以上の観衆が集まり、1羽、1羽放たれることに大き

「コウノトリは、トキよりも早くから絶滅が危くされ、野生のコウノトリを捕獲し、人工飼育が始まったのが1965年。その後、

9月24日(土)、秋篠宮殿下、妃殿下をお迎えし、華々しく第3回「コウノトリ未来国際かいぎ」の開会式が1000人近い参加者が集う市民会館で行われました。午後からは、人工飼育が行われている、兵庫県立コウノトリの郷公園」から、訓練された5羽のコウノトリが放たれ、環境の悪化によって日本において一度は絶滅したコウノトリが、40年に及ぶ人工飼育を経て、再び豊岡の空に舞い上がりました。



ワークショップでの様子(小山絢子さん)



ワークショップでの様子(菊池柚衣さん)

な歓声が沸き、その歓声に答えるかのように観衆の上をゆっくり羽ばたいて上空の感触を楽しんでいるようでした。

翌25日には、4分科会に別れ、それぞれの分野で活躍している方々の実践発表がありました。行谷小学校の子どもたちは、ハロフスク(コウノトリ)、宮城県田尻町大貫小学校(ガン)、豊岡市三江小学校小坂小学校(コウノトリ)とともに学校で行っているトキ集会やヒトフブクリについて実践活動を報告しました。行谷小学校の素晴らしい活動報告は、コーディネーターのケビン・ショート氏、柳生博氏、永田萌氏

から絶賛され、今後の継続した活躍を期待したいと励まされました。

この分科会で発表した行谷小学校の子どもたちの感想を紹介します。

石塚 久晃

コウノトリを放鳥した時、ぼくはとても感動しました。トキ放鳥が待ち遠しいです。そして、放鳥のための活動をがんばりたいです。また、ロシアや豊岡、宮城の人と仲良くなれ、すばらしい体験をすることができました。

小山 絢子

「飛んでった。私達は、コウノトリの放鳥が見られるということとで、兵庫の豊岡市にきた。ホテルでは、ロシアの人や、宮城の人達とも友達になれた。放鳥もキレイで、兵庫にいてよかった。

菊池 柚衣

九月二十五日、国際子ども会ぎに参加した。そこには、ロシア、宮城、地元からも会ぎに参加していた。コウノトリやガンのことで行っていることで、まねできるところは佐渡でもまねしたいと思った。すばらしい体験ができた。



放鳥後公開ケージに戻ってきたコウノトリ



分科会が終わって記念写真撮影

絶滅した動物を人里で野生復帰させるのは世界的にも例がなく、「人と自然の共生」の先進例として世界からも注目されています。平成20年には、トキも試験放鳥の計画があり、今後放鳥の方法や時期、場所等の検討が予定されていますが、今回の豊岡市での経験を踏まえ、近い将来佐渡の上空に群れで羽ばたくトキの姿を見ることができるよう努力していきたいものです。

環境保健課トキ推進室
☎ 3111